

1 全体計画

学校の教育目標

・考える子 ・思いやりのある子 ・元気な子

令和3年度学校経営方針

児童の実態に基づいて指導方法を工夫改善した授業と評価規準・評価計画による適正な評価・評定を実施し、個に応じた指導や補充学習、少人数・習熟度別指導等を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

本校の捉える「確かな学力」

- 基礎的・基本的な学力の定着と知識・技能を活用する力を身に付ける。
- 学習習慣を確立し、主体的な学び方を身に付ける。

令和3年度の指導の重点

＜各教科＞

- ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
- ・言語活動や課題解決学習、体験的な学習の充実により、思考力・判断力・表現力を育成し、活用する力を身に付けさせる。
- ・図書とタブレット（iPad）を活用した調べ学習を推進し、主体的な学び方を身に付けさせる。
- ・体づくり運動の工夫・改善に加え、体力向上月間での取組を通して体力向上を図る。

＜特別の教科 道徳＞

- ・道徳科の時間を核とし、全教育活動を通して生命や人権等を尊重する態度を育成する。

＜特別活動＞

- ・縦割り活動・代表委員会活動など自治的活動を通して、違いを認める寛容性や、自己の役割・有用感を養う。

＜総合的な学習の時間＞

- ・探究のプロセスを通じて児童の主体的な活動を展開する。
- ・カリキュラム・マネジメントにより各教科及び領域との関連を図った活動を計画的に実施する。
- ・課題設定・問題解決の能力、表現力、コミュニケーション能力、自己の生き方を考える力等を育てる。

＜生活指導＞

- ・個々の良さを生かし、活躍の場を与える指導を行うことで、自己肯定感、自己有用感を育む。
- ・いじめを許さない人権感覚を育成する。

＜進路指導＞

- ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の推進や上級学校の授業体験を通して、自己の生き方を考える力を育み、自己実現を促す。

授業改善の視点

指導内容・指導方法の工夫

- ・児童理解に基づいた指導方法を工夫改善した授業を進め、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- ・教材を工夫し、児童が主体的に学ぶ時間を確保する。
- ・習熟度別の少人数指導による課題解決型の授業を展開し、学力の定着を図る。

教育課程編成上の工夫

- ・朝の学級指導の時間を活用し、個別指導を行う。
- ・朝読書の実施や学校図書館の活用を通して読書活動を推進する。
- ・東京ベーシックドリルの活用や放課後学習教室等による補充学習を推進し、学習内容の定着を図る。

評価の工夫

- ・教科ごとの全体計画や評価規準を整備し、指導と評価の一体化を図る。
- ・児童の授業内での振り返り及び教師の授業評価を実施する。

校内研究・研修の工夫

- ・発達障害、特別支援教育についての理解促進と個に応じた指導の工夫をする。
- ・特別支援教育を専門とする講師を招聘し、特別支援に関する基礎的知識やワークショップ等を取り入れながら、教員一人一人が自己研鑽し、実践する。

中学校との連携

- ・6年生で中間試験を第二中学校の試験日と合わせて実施し、中学校生活へ向けての意欲付けを図る。
- ・小中連携協議会での中学校との情報共有を図る。互いの乗り入れ授業では、教科の専門性を生かしながら児童・生徒の実態を踏まえて改善する。

家庭・地域との連携

- ・家庭学習の手引きを作成し、家庭と協働して主体的な学習習慣の定着を図る。
- ・学校の取組の内容などを家庭、地域へ発信し、社会に開かれた教育課程を確立する。
- ・保護者、地域の人的・物的資源を活用する。

学力向上に向けた任期付短時間勤務教員の活用

- ・習熟度別少人数指導の際にティーム・ティーチングによる指導を行い、個に応じた指導を充実させる。
- ・任期付短時間勤務教員を中心に、放課後学習教室を週4日実施し、基礎的・基本的学力の定着を図る。

2 各教科における授業改善プラン

(1) 国語科

<p>国語科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校図書館指導員と連携し、国語科の学習と連動させた読書活動を行う。幅広い分野の本と触れ、読書を通して考えを広げたい深めたいしながら言語能力を向上させ、読書活動の充実を図る。また、学校図書館の活用計画を基に調べ学習を実施する。 ○書く力を高めるために、目的や相手意識をもたせて単元を計画することや、日常的に書く活動を取り入れる等、児童が書くことへの抵抗がなくなるよう工夫し、主体的に書くことに取り組めるようにする。 ○話す・聞く力を高めるために、目的や相手意識をもたせ、伝えたい内容を明確にした単元計画を行う。また、順序立てて話したり、大事な事柄を落とさずに聞いたりするなど、各学年での学習内容が着実に身に付けられるように工夫をする。
<p>令和3年度「中野区学力にかかわる調査 国語」の結果より</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年の校内平均正答率は、区の平均正答率を上回っている、又は同程度である。 ○第2学年と第3学年の「話す・聞く」領域の達成率は平均正答率を下回っている。 ○第2学年の「読むこと」領域の達成率は平均正答率を下回っている。 ○第4学年と第5学年の「書く」領域の達成率は平均正答率と同程度であり、その他の領域と比較すると得点が低い傾向にある。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙が少なく、書くことに苦手意識をもっている児童がいる。 ○読書や読み聞かせを通して読書活動を楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書く目的や相手意識をもたせるための工夫。 ○語彙に関する児童の個人差が大きい。 ○様々な分野の本に触れる工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○書く目的や相手意識をもてるような単元計画を作成する。 ○どの児童も「自力で書くことができた。」という達成感を味わえるように、書き方ヒントカードを用意するなど、個に応じた指導ができるようにする。 ○各単元に応じて、並行読書や発展読書用の図書を学校図書館と連携して用意し、意図的に多様な分野の本と触れ合う場を設定する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○学力調査の結果から、読むこと(物語文、説明文)、言語の領域では区平均をやや下回っている。 ○話を聞いて理解することや、文章を読んで理解することに課題があり、他教科の学習や生活面にも影響を及ぼしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校や家庭での読書量に差がある。 ○文章を書いて自分の考えを論理的にまとめる経験の不足。 ○言語活動の充実。 ○既習事項の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書指導(読書日記、カード)を継続的に行い、読書をする機会を増やす。 ○作文指導(日記)を継続的に行い、文章の型を参考にしながら自分の考えを文章に書けるようにする。 ○友だちの話を聞いて自分の考えを述べる言語活動、文章の読み取りの学習を毎単元に取り入れ、充実させる。 ○文章の読み取りのコツやポイントを教室掲示するなどして既習事項の定着を図る。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎問題と活用問題の間に12.8ポイントの差がある。身につけている知識を使って問題を解くことが難しい児童が多い。 ○「経験したことから書くことを見付け、文章を書く」問題の正答率が目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活用問題を扱う機会の不足。 ○意欲的に文章を書く指導の工夫。 ○構成を考えてから文章を 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や家庭学習で活用問題を扱い、慣れおくことで既習事項の活用の仕方を学び、活用問題への抵抗感を減らす。 ○家庭学習でミニ作文に取り組むなど、日常的に書くことに親しむ環境作りを行い、書き慣れることで抵抗感を減らす。 ○文章を書く際は、ワークシートを用いて

		書く機会の不足。	構成メモを作らせるなど、事前の準備を丁寧に行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○様子や行動、気持ちを表す語彙が少なく、自分の考えを十分に表現できない児童が多い。 ○書くことへの苦手意識があり、「文章を書く」問題の正答率が目標値より2.8ポイント低い。 ○知識・技能の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○語彙を豊かにする工夫。 ○「書くこと」領域の単元の授業展開の工夫。 ○日常的な言語環境の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の目的に応じた言語を紹介し、伝えたいことに合わせて語句を使う学習場面を設定する。 ○目的を明確にした単元計画をする。また、考えをもたせてから記述に入れるよう、思考する時間を十分に取る。また、交流する言語活動を通して問題解決できるようにする。 ○新出漢字だけでなく、学年に応じた言語事項を習得できるように、ミニテストやアプリを活用する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○読むことの技能では個人差が大きい。3分の1の児童が「物語・説明文の内容を読み取る」問題で正答率が全国平均を下回っている。 ○様子や行動、気持ちを表す語彙が少なく、自分の考えを十分に表現できない児童が多い。 ○話し手の考えと自分の考えを比較しながら話の内容を捉え、自分の考えをまとめることに課題がある。 ○読書量に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○描写を基に人物相互の関係や心情を捉える指導の工夫。 ○叙述を基に事実と感想、意見などの関係を把握する指導の工夫。 ○語彙や表現方法を豊かにする指導の工夫。 ○相手と自分の考えの共通点や相違点を整理しながら聞き、自分の考えを形成させる指導の工夫。 ○学校図書館を活用した指導の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童に着目させたい語句を明確にし、その語句について授業内で確実に取り扱うようにする。 ○読んで分かったことを共有する時間を十分に確保する。 ○多くの文章を読んで優れた表現に触れたい、自分の表現に生かす活動を設定する。 ○話を聞く際の視点を示し、話を聞く目的を児童が明確に意識してから活動に入るようにする。 ○共感・納得した内容を取り上げて自分の考えをまとめるように指導する。 ○学習中の単元に関係する書籍を図書室から借り、自由に読めるコーナーをつくる。 ○単元の中で、教科書以外の本を活用する機会を設定する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○「漢字を正しく読む」の正答率が「書くこと」よりも目標値を下回っている。 ○説明文の内容を読み取り、文章を読んで理解したことを、他の例に当て 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字の読み書きの力を高める指導や練習の工夫。 ○説明文の内容を読み取り、文章構成の良さに気付 	<ul style="list-style-type: none"> ○辞書やiPadなどを活用して分からない漢字を自分で確認する習慣を身に付けさせる。単元の新出漢字の読みを全体で確認する。漢字練習は考えて練習できるように自分で計画を立て、練習の仕方を工夫する。 ○説明文の中の筆者の考えを読み取るだけでなく、説得力のある文章構成につ

はめて考えることが苦手な児童が多い。

- 話し合いをもとに目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすることに課題がある。

く指導の工夫。読み取ったことをもとに活用する単元指導計画の設定。

- 目的や相手を明確にし、書くだけでなく読み直しをしたり、より適切な表現に直したり推敲する時間の確保。

いて考えたい、自ら文章を書きたいする。単元指導計画に説明文の読み取り後、読み取ったことを基にした活用する活動を設定する。

- 児童にどのような目的や誰に伝えるのかを考えさせ、目的や相手を明確する。文章にする前にイメージマップや構成メモを使い、文章にまとめやすいようにする。書いた後には、必ず自分で読み返しをする。友達とも交流し、推敲する時間を確保する。

(2) 社会科

<p>社会科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料などを通して問題を見出したい自分の考えをまとめたがる活動を設定し、思考力、判断力、表現力の変容を見取る。 ○地図や写真、表・グラフなどの各種資料を読み取る基礎的な技能を身に付け、主体的な調べ学習を促す。 ○授業の導入時に、地図帳などを活用した簡単なゲームやクイズ、実物の提示などを取り入れ、児童の社会に対する興味・関心の向上や知識・理解の定着を図る。 ○地域にある施設や人材を活用し、観察・見学など調査活動の充実を図る。
--

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○地図記号を覚えたい、地図帳を活用したいするのに意欲的な児童が多い。 ○地図や写真、文章資料の読み取りにまだ慣れていない。 ○調べたことをまとめた、社会的事象について自分なりに考え言葉で表したいする力が+分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の見方や活用の仕方についての指導と練習。 ○調べてわかったことのまとめ方や自分なりの考えの表し方の話型や手本を提示しての活動と指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な生活経験と結び付けながら、様々な資料や地図を読み取る機会を増やす。 ○資料を見るときの視点を具体的に示す。 ○調べたことの根拠を明らかにするための発問や話型の提示を行う。 ○まとめ方のポイントを具体的に指導したり、他の児童の良い作品例を紹介したりして工夫させる。 ○調べたいまとめたかったことを交流する活動を取り入れ、お互いの考えや手法を参考にしながら表現する力を高める。
	<ul style="list-style-type: none"> ○資料を組み合わせながら読み取るかに課題が見られる。 ○調べたことを実生活に生かしていこうとする意欲が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の見方や活用の仕方について習得する工夫。 ○調べて分かったことや考えたことを表現したり、生活に結びつけたいする工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の見方について指導するとともに、読み取る機会を増やす。 ○資料から読み取ったことを基に、話し合う活動を行う。 ○実物を用いて、実生活との関連をイメージしやすくする。 ○単元の目的として家の人や学校全体に調べたことを伝える活動を設定する。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して意欲的に取り組みむ児童が多い。 ○知りたい情報を適切に調べたい、まとめる技能の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料や調べ方の特性を理解して、知りたい情報を集めることについての指導。 ○調べた情報を整理して、効果的にまとめることについての指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ○それぞれの資料や調べ方の特性について、例を示しながら指導する。 ○資料から読み取ったり、調べたいする際の視点を示してから活動に移る。 ○それぞれまとめ方の特性について、例を示しながら指導する。 ○効果的なまとめ方の例を示したり、まとめる際のキーワードを確認したいする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○いくつかの資料を比較したり、詳しく読みとったりする中で学習問題を見出すことができる。 ○学習問題について、調べたことを振り返ってまとめる際に、表現力に個人差が大きいことが見取れる。 ○歴史単元には、興味・関心をもっている児童がとて多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題の設定から、まとめまで活動の見通しをもたせるような主体的な学習計画の設定。 ○様々な表現方法でまとめることができる活動の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○どの学習でも、ノートが調べる計画を立てて、主体的に学習を進められるようにする。 ○「調べて分かったこと」や「考えたこと」を体系的に記録し、学習を振り返る一助とする。 ○ICTを活用し、様々な学習のまとめ方を提示して、児童が選択できるようにする。

(3)算数科

算数科の重点

- 活用力を育成する問題解決的な学習を取り入れ、自力解決・学び合いの時間を確保し、思考力、判断力、表現力を培う。
- 東京ベーシック・ドリルを活用して基礎学力の定着を図る。習熟が必要なクラスでは必要に応じて前年度の復習を、また上位クラスでは、発展問題を取り入れ、応用力を伸ばす。
- 具体物や図形の模型を操作・活用するなど作業的・体験的な活動を通して、数量感覚や図形の性質やしきみをつかめるようにする。
- 図や表、絵などに視覚化したり、きまりを見付けたいりする活動を取り入れ、自力解決する力を向上させる。
- 7時間の授業のねらいを明確にし、身に付けさせたい力を焦点化する。また、めあてを児童自ら意識できるよう授業を構成する。
- 少人数学習集団の習熟度別で学習することによって、一人一人のペースに合った学習を行い、達成感・成就感等を与える。
- ICT 機器を導入し、意見交流や図解などに活用することで学びを深め、数学的な見方を強化する。
- 計画的な板書、ノート指導など、学びの過程がわかるよう工夫をする。

令和3年度「中野区学力にかかわる調査 算数」の結果より

- どの学年も、基礎力・活用力ともに目標値は上回っているが、応用力は低い傾向にある。
- 領域別に見ると、2～5年生は「図形」、6年生は「変化と関係」が他領域に比べ、低い傾向にある。
- 観点別に見ると知識・技能はこの学年も8割近い。一方で、この学年も思考・判断・表現については7割を下回っている。
- 総じて、基本的な知識・技能はあっても、それを応用したい図や表、絵に表すことを苦手とする傾向が見られる。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○計算技能の個人差が見られる。	○既習単元の内容を反復して練習する時間の確保。	○朝学習や放課後学習教室を活用し、数の認知を高め、計算技能の習熟を図る。
	○文章題の意味理解が苦手な児童がいる。		
2年	○自分の考えを相手に伝わるように表現することが難しい。	○自分の意見を発表したい交流したいする時間の確保。	○ICT 機器を導入し意見交流や図解などに活用する。
	○中野区学力調査の結果から長さ、水のかさ、時間といった単位を使って表すことに苦手意識がある児童がいる。	○単位換算の定着を図る時間の確保。	○日常生活の中に関連付けて繰り返し指導していく。
3年	○加法・減法の計算技能に個人差があり、指を使って計算する児童もいる。	○計算力の向上を図る時間の確保。	○学習の最初の5分間や朝学習で、計算問題に取り組み、習熟を図る。
	○中野区学力調査の結果から基礎力はあるが活用して課題を解決するに課題が見られる。	○既習の学習を生かして自力解決していくことができる授業展開の工夫。	○問題解決的な授業展開を取り入れる。また、具体物を用いたり、図に表したいりする活動を取り入れ、実感的に理解できるようにする。
4年	○長さ・かさの領域やグラフや表から人数の違いを読み取ることが苦手な児童が多く見られる。	○長さ・かさなど苦手な領域に関する習熟時間の十分な確保。	○学習の最初の5分間や朝学習で、定着が不十分な領域を中心に東京ベーシックドリルや計算ドリルを活用して繰り返し指導を行う。
	○計算の技能の個人差が大きく、九九が苦手な児童もいる。	○前年度までの復習や習熟の時間の確保。計算を丁寧に行う指導。	○学習の最初の5分間や朝学習で、計算問題に取り組み、習熟を図る。日常的に見直しを行うよう指導を繰り返し行う。
	○中野区学力調査の結果から図形の領域が他領域に比べ70%を下回っており、三角定規やコンパスで平行な線を引きたい、作図をしたいすることが苦手な児童が見られる。	○道具を使って作図をする時間の確保。	○道具の使い方を ICT 機器を活用し丁寧に確認しながら、作図の問題を何度も行い、習熟を図る。
	○東京ベーシックドリルの結果		○図のかき方や取り掛かりのポイントを押さえ、表現し合う時間を確保する。

	<p>を見ると、「式による表現」の単元正答率が低く、場面の式を図や□の式として捉えることが苦手な児童が多い。</p>	<p>○文章を図や□の式に置き換えて整理する指導の工夫。</p>	<p>○具体物を用いたり、操作活動を多くしたりして実感を持った理解ができるようにする。</p>
5年	<p>○小数のわり算の計算ミスや概数、小数点の位置の間違いなどのミスをする児童が多い。</p> <p>○中野区学力調査の結果から図形領域では、複合図形の面積の求め方、単位換算が苦手な児童が多く見られる。</p>	<p>○計算を丁寧にを行う指導。</p> <p>○基本図形の組み合わせで複合図形が成り立っていることを理解する力を付ける指導。</p>	<p>○算数学習の進め方を統一し、ノートの書き方などの指導を徹底する。</p> <p>○日常的に見直しを行うよう指導を繰り返す。</p> <p>○具体物や ICT 機器を活用して複合図形の求め方について丁寧に確認したり、面積や単位換算の問題を何度も行ったりして、習熟を図る。</p>
6年	<p>○学習の定着度が大きく二極化している。</p> <p>○中野区学力調査の結果から「思考・判断・表現」の領域が他領域よりも低く、問題を解くときに、考え方の説明が苦手な児童が多く見られる。</p>	<p>○計算の定着や既習の学習内容を習熟する時間の確保。</p> <p>○授業を通して児童に、「思考力、判断力、表現力等」を身に付けさせる授業展開の工夫。</p>	<p>○学習の最初の5分間や朝学習で、計算プリントや計算ドリルを活用して、習熟を図る。</p> <p>○問題から分かっていることや解決に利用できるような既習事項を確認し、自分の考えをしっかりともつ時間を確保する。また、感染対策を考慮しつつ、ペア学習、グループ学習の時間を設定し、対話を通して「思考力、判断力、表現力等」を育む。</p>

習熟度別少人数指導の充実に向けて

○習熟度別少人数指導の充実及び任期付短時間勤務教員活用の工夫

- ・具体物、半具体物の操作を通して、図形の性質や仕組み、数量感覚、また文章題の言葉の意味とも結びつけられるようにする。
- ・ICT 機器を、意見交流や図解などに積極的に活用していく。
- ・習熟度に応じた課題を用意し、思考力、判断力、表現力を培うとともに、学習に対する達成感、成就感等を味わえるようにする。
- ・任期付短時間勤務教員を中心に、放課後学習教室を実施し、基礎的・基本的学力の定着を図る。

(4)理科

理科の重点

- 問題解決の過程(問題設定、予想、計画、観察／実験、考察、結論)を踏み、論理的な思考を育む。
- 身の回りの自然の事物・事象の中で得た気付きや疑問から問題を設定し、観察／実験を通した探究活動を通して問題を解決したり、新たな問題を発見したりする経験を積む。
- 各学年において、主に育成を目指す問題解決の力の育成を意識した指導を行う。
- グループやペアでの対話の場を設定し、相手を意識して自己の考えを表現する力を育むとともに、多様な考えに触れ、自己の考えを深められるようにする。
- 器具や機器などを目的に応じて工夫して適切に扱ったり、結果を適切に記録したりする技能を育む。
- ICT機器を活用し、自然の事物・事象について、継続的な経過の記録や変容を捉え易くし、比較、分析ができるようにする。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○予想を立てたり、観察・実験をしたりすることに意欲的な児童が多い。 ○気付きや疑問から問題を作り出すことができる児童が少ない。 ○設定した問題に正対し、考えを導くことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の疑問や発見から始まる問題解決型の授業展開。 ○学習問題を正しく理解し、考えを表現する指導の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の事象との出会いが豊かになるよう教材を準備し、疑問を出させることを大切にする。 ○実験や観察の結果をわかりやすくするために表やカードを使ってまとめさせるようにする。 ○解決すべき問題は何であったのかを振り返らせ、視点を絞って考えさせたり、話型を示しながら表現させたいとする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○自然に親しみ、大切にしようとする態度が身に付いている。 ○観察・実験だけでなく、言語活動にも意欲的に取り組んでいる。 ○予想を発想できる児童は多いが、根拠を表現したり結果から考察できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業の工夫。 ○自然の事物・現象の変化の要因を既習事項や経験と関係付けて表現できるようにする指導の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○考えたことや表現したことを共有できるよう、タブレットを積極的に活用していく。 ○既習内容の提示をしたり、自然事象や物質へのイメージを整理したいすることにより、現象と要因を関係付けて考えられるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の課程については、よく理解し、意欲的に問題解決に取り組む児童が多い。 ○自分の考えに根拠をもたせたり、相手に伝わるよう意識して表現したりすることができる児童が少ない。 ○対話力に差があり、相手 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が主体となって活動を決定できる授業展開。 ○科学的な考え方の意識化、自覚化を促す指導の工夫。 ○全ての児童が自分の考え 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が様々な解決方法を発想できるよう、「条件制御」の考え方を、図や表を用いてわかりやすくまとめさせるようにする。 ○結果を事象や物質などに分けて整理し、因果関係や共通点差異点に着目できるようにし、「比較する」「関係付ける」といった考え方を児童が意識できるようにする。 ○考察する際の視点を提示し、児童が自分の考えをもてるようにする。

	<p>の考えを聞き、自分の考えを深めることに課題がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験による自然事象の変化や変容を捉えにくい児童がいる。 	<p>を表現できる機会の設定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した授業展開の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思考を深めるため、感染対策をしながら、ペア、グループで対話する時間を多く設定する。 ○写真や動画での記録やグラフ化を用意し、視覚的に結果を捉えられるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○すすんで学習に取り組んでいる児童が多いが、自分の言葉で問題を設定したい、結論を導出したいと表現することに消極的な児童が多い。 ○教師の具体的な発問に対しては答えることができるが、問題解決のための活動を決定したり、発信したいすることには苦手意識が強い。 ○学習を振り返って、これからの学習や生活に生かすという態度が身に付いてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを積極的に活用した、対話型の学習活動の展開。 ○児童が主体となって活動を決定する学習活動の設定。 ○視点をはっきりとさせた学習の振り返りの工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の考えを発信し、他者の考えを受け入れる機会を多く設定する。話し合い活動だけでなく Google アプリ等を活用して、考えを共有する場を設けるようにする。 ○問題解決の過程とそれに対応した「考え方」を確認し、児童が自分の考えを形成したり、学習活動を決定したりできるようにする。 ○感染対策を考慮しつつ、一単位時間の中で児童の発話、対話する機会を多く設定する。 ○概念地図法を用いた学習の振り返り。 ○「自己変容」と「生活との関連付け」を振り返りの視点として提示する。

(5)生活科

生活科の重点

- 諸感覚を使う自然体験や身近な人々との交流などを通し、児童が自ら楽しさや気付きを得られる場を設定する。
(知識及び技能の基礎)
- 活動や体験を通して、「見付ける、比べる、たとえる」などの学習活動を行いながら、自分自身や自分の生活について分析的に考えられるようにする。(思考力・判断力・表現力の基礎)
- 活動や体験を通して、「見通す、試す、工夫する」などの学習活動を行いながら、気付いたことなどについて創造的に考えられるようにする。(思考力・判断力・表現力の基礎)
- 一人一人の気付きなどを表現・交流・共有することで、新たな気付きが生まれたい様々な気付きが関連付けられたいような学習活動を行う。(思考力・判断力・表現力の基礎)

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○動植物などの自然物を観察したり、世話をしたいする活動自体を楽しんでいる児童が多い。 ○感じたこと、気付いたことを言葉や絵で表現することを苦手とする児童がいる。 ○「何をしたいか」思いや願いをもつことはできるが、「どうしたら実現できるか」を考えられる児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたこと、気付いたことを共有し合う活動の工夫。 ○生活経験とつなげ、思考力を高められるような活動の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○感じたことや気付いたことを絵カードや付箋など様々な方法で伝え合い、共有することで多様な表現方法に触れる活動を行う。 ○自分自身や自分の生活について分析的に考えられるよう意図的に生活を振り返る声掛けを行った時、「見付ける、比べる、たとえる」を意識させたい学習活動を行う。 ○気付いたことについて、創造的に考えられるよう、活動を「見通す、試す、工夫する」を意識させる学習活動を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ○野菜を苗から育て、自分の育てている野菜について調べるなど、活動を楽しんでいる児童が多い。 ○自分の身の回りの環境について、知らなかったことを知り、それを周りに発信するために工夫して伝え合う児童が多い。 ○課題について「楽しそう」「やりたい」と興味をもっているが、課題を解決するためにどうすればよいか考えて学習に取り組むことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○より多くの人に発信し、共有する方法の工夫。 ○調べ方や発表の仕方など様々なやり方を提示し、調べ方、発表方法を提示し、それを選びながら自分で取り組めるような工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたことを自分でまとめ周りの意見や考えを自分の課題に取り入れたいし比べたいしながら、より多くの人に理解してもらえるような発表の仕方を意識させるようにする。 ○気付いたことについて、創造的に考えられるよう活動を「試す、見通す、工夫する」を意識させる学習活動を行う。

(6)音楽科

音楽科の重点

- 曲想と音楽の構造などに関わりについて理解し、表したい音楽表現に必要な技能を身につけるようにする。
- 音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。
- 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育み、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を養う。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	○音楽に親しみ、意欲的に取り組む児童が多い。音楽に合わせて、リズム打ちや身体表現に取り組むことができる。	○自らすすんでリズム打ちや身体表現を取り入れた展開を工夫する。	○音楽を身体で表現したり、リズム遊びを取り入れ楽しみながら学習に取り組めるようにする。
	○集中力の持続に課題がある。曲の間奏の間、拍子とは関係なく体や手が動く。	○間奏の間も歌がある部分と同じ曲の大切な一部であることを理解させる指導を工夫する。	○楽曲を聴く前に、聴くのポイントや聴き方を伝え、じっくりと味わって聴くように授業規律を整えるようにする。
2年	○音楽に合わせて、リズム打ちや身体表現に取り組むことができる。	○自らすすんでリズム打ちや身体表現を取り入れた授業展開を工夫する。	○音楽を身体で表現したり、リズム遊びを取り入れ楽しみながら学習に取り組めるようにする。
	○音楽鑑賞は好きであるが、すすんで取り組むことに課題がある。	○気付いて欲しいことなど発問の工夫をする。	○様々な音源で何度も聴き、演奏の良さや特徴を発表して曲の理解を深められるようにする。
3年	○意欲的に取り組むことのできる児童が多いが、鑑賞でじっくり聴くことに課題がある。	○楽曲の音源が児童の実態に合っていないので、音源の精選をする。	○楽曲は、目標が達成できる魅力的な音源を精選し、聴く活動の楽しさを味わえるようにする。
	○気付いたことや感じたことなど、自分の思いを伝えることが苦手な児童が多い。	○音楽科として自分の思いを伝える授業展開、教師の発問の仕方を変えていく。	○表現する言葉の一覧表を配布し、鑑賞や表現活動に取り入れて、発表する場を設定する。
4年	○基礎的なリズム打ちや打楽器の奏法が身に付いていない児童がいる。	○楽曲にあった音色を出す工夫。	○音楽づくりの導入として、基本的な打楽器の奏法を取り入れる活動をする。
	○音楽鑑賞は好きであるが、すすんで取り組むことに課題がある。	○気付いて欲しいことなど発問の工夫をする。	○演奏の仕方を知り、様々な音の出し方の工夫を学び、楽曲にあった音色を演奏する学習を取り入れる。
4年	○音符や休符の名前や長さなどすすんで学習に取り組むことに課題のある児童がいる。	○発達段階にあった教材を工夫し用意する。	○感じたことを表現する言葉を集めた表を配布し、発言や発表ができる場を設定する。
			○常時活動の一部として取り入れ、学習が定着するように取り組むようにする。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ○打楽器の基本的な奏法が身に付いてきている。 ○学習活動の中で教え合うなどの関わり合いが少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○使用する楽器が限られているので、多くの楽器に触れることができるように学習内容や場の工夫をする。 ○友達との関わりを通した学び合いの活動が減っている中で、個人の学習活動に偏っているので、学習の設定を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特定の楽器だけでなく、その他でも生かすことができるように、基礎的な奏法を確認しながら、他の楽器でも生かすことができるように学習内容を計画的にすすめる。 ○感染対策に考慮しながら、ペア学習や少人数グループでの活動を取り入れ、一斉授業の中でも学び合いの活動ができるように、指導方法を工夫していく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○打楽器の基本的な奏法が身についてきている。 ○学習活動の中で教え合うなどの関わり合いが少なくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○使用する楽器が限られているので、多くの楽器に触れることができるように学習内容や場の工夫をする。 ○友達との関わりを通した学び合いの活動が減っている中で、個人の学習活動に偏っているので、学習の設定を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特定の楽器だけでなく、その他でも生かすことができるように、基礎的な奏法を確認しながら、他の楽器でも生かすことができるように学習内容を計画的にすすめる。 ○感染対策に考慮しながら、ペア学習や少人数グループでの活動を取り入れ、一斉授業の中でも学び合いの活動ができるように、指導方法を工夫していく。

(7) 図画工作科

図画工作科の重点

- 児童が造形的な視点を理解できるようにする。(知識)
- 児童が材料・用具の適切な扱いに慣れるようにする。(技能)
- 児童が自分や友達がつくったり表したりした作品や、考えたことを大切にできるようにする。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善策
1年	○形や色の組み合わせの感じを捉えることに課題がある。	○形や色の組み合わせの仕方に関する指導の工夫。	○各題材で形や色の組み合わせ方を示し、共有する。
	○はさみ、のり、クレパス、絵の具の扱いに課題がある。		
2年	○互いの作品の良さを認め合う児童が多い。	○用具の扱いに関する指導の工夫。	○用具の扱いに関する留意点や使用法を視覚的に提示し、つまずきやすい児童が常時確認できるようにする。
	○立体物の形や組み合わせの感じを捉えることに課題がある。	○造形的な視点に関する指導の工夫。	○各題材で重点を置く造形的な視点を児童に明示する。
3年	○粘土や紙工作でイメージした形をつくることに課題がある。	○材料の扱いに関する指導の工夫。	○材料の扱いに関する留意点を、導入時に確認させたり、試しの時間を設定したりし、つまずきやすい児童が常時確認できるようにする。
	○互いの作品の良さに気付くことに課題がある。	○互いの作品や活動に関心をもてるようにする指導の工夫。	○互いの作品を見合う前に、題材名や作品の良さを見つける視点を与える。
4年	○色々な材料を自由に使うことに課題がある。	○材料・用具の扱いに関する指導の工夫。	○材料・用具の扱いに関する留意点を、導入時に確認させるとともに、つまずきやすい児童については個別に支援する。
	○自分の作品に自信をもつことに課題がある。	○互いの作品や活動に自信をもてるようにする指導の工夫。	○互いの作品や活動に目を向ける活動を設定する。
5年	○自分のイメージをもつことに課題がある。	○イメージをもてるようにする指導の工夫。	○導入時にキーワードを投げかけ、想像する時間を十分に確保する。
	○形や色などの感じ(形や色の印象など)を捉えようとする児童が多い。	○材料・用具の扱いに関する指導の工夫。	○材料・用具の扱いに関する留意点を、導入時に確認させるとともに、つまずきやすい児童については個別に支援する。
5年	○はさみやのり、水彩絵の具などの扱いに課題がある。	○互いの作品や活動に関心をもてるようにする指導の工夫。	○鑑賞会や発表会を充実させるとともに、児童の肯定的・共感的な態度を価値づける指導を行う。
	○自分の作品や活動に自信をもつことに課題がある。	○材料・用具の扱いに関する指導の工夫。	○材料・用具の扱いに関する留意点を、導入時に確認させるとともに、つまずきやすい児童については個別に支援する。
5年	○形や色などの造形的な特徴(動き、バランス、色の組み合わせの感じ)を捉えようとする児童が多い。	○互いの作品や活動に関心をもてるようにする指導の工夫。	○鑑賞会や発表会を充実させるとともに、児童の肯定的・共感的な態度を価値づける指導を行う。
	○電動糸のこぎりや針金、ペンチ、カッターナイフなどの扱いに課題がある。		

6年

- 形や色などの造形的な特徴(動き、バランス、色の濃淡など)を捉えようとする児童が多い。
- 針金やペンチ、紙粘土、水彩絵の具などの扱いに課題がある。
- 自分の作品や活動に自信をもつことに課題がある。

- 材料・用具の扱いに関する指導の工夫。
- 互いの作品や活動に関心をもてるようにする指導の工夫。

- 材料・用具の扱いに関する留意点を、導入時に確認させるとともに、つまずきやすい児童については個別に支援する。
- 鑑賞会や発表会を充実させるとともに、児童の肯定的・共感的な態度を価値づける指導を行う。

(8)家庭科

家庭科の重点

- 自分の生活や生き方をより充実した豊かなものにするために、日常生活を見直すことの大切さを気付かせ、日常生活の中での課題を見出し、解決方法の工夫を考えさせ実践できるようにしていく。
- 家庭での実践を自主的に行うことができるようにするために、実践的・体験的な活動を一層重視すると共に、知識や技能を確実に身に付けさせるために個別指導を多く取り入れていく。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に対する関心・意欲が比較的高い児童が多い。 ○家庭科の学習と日常生活とのつながりを意識できていない児童がいる。 ○基礎的・基本的な技能の習得に個人差が大きく、製作などにかかる時間のばらつきが大きい。 ○コロナ禍で調理実習ができないため指導に工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自己の体験や経験をもとに考え、行動することができるような指導の工夫。 ○児童の実態に合った単元計画の作成や個に応じた指導法の工夫。 ○試食はしない指導、家庭に協力をあおぐ等の工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家事を行う知識や技能を身に付けることが自立して生活するために大切であることを意識させ、家庭科の学習に必然性をもたせるようにする。 ○自分の生活を振り返り、家族の一員としての自分の役割を意識させ、実生活に反映できる活動を授業で設定する。 ○相手意識や目的意識をもたせた活動を設定する。 ○個々の技能に応じた作品作りを指導する。 ○作業工程を明確にし、それぞれが見通しをもつて行えるようにする。 ○感染症対策を考慮しつつ、グループで教え合う活動を取り入れ、技術の向上を図る。 ○個別指導を取り入れ、進度の差が大きくなるようにしないようにする。 ○試食はしないが、手洗いを徹底して調理実習を実施する。(持ち帰りもなし) ○土日を活用して家庭学習を課す。
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習に対する関心・意欲が比較的高い児童が多い。 ○第5学年で学習したことが比較的身に付いている。(調理は除く) ○家庭科の学習と日常生活とのつながりを意識できていない児童がいる。 ○基礎的・基本的な技能の習得に個人差が大きく、製作などにかかる時間のばらつきが大きい。 ○コロナ禍で調理実習ができないため指導に工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が自己の体験や経験をもとに考え、行動することができるような指導の工夫。 ○児童の実態に合った単元計画の作成や個に応じた指導法の工夫。 ○試食はしない指導、家庭に協力をあおぐ等の工夫が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ○住まい方に関する正しい知識を基に、自分の生活を振り返り、快適な暮らしに向けた改善策を考え、実生活に反映できる活動を設定する。 ○「食べることの大切さ」を学び、日本の伝統的な食事(和食)など食育についても学習する。 ○少人数で調理実習計画を立てさせることで、主体的に見通しをもった活動にする。 ○家庭でも、家族の一員としてできることに取り組みさせ、できることを増やし、達成感と有用感をもたせる機会を増やす。 ○長期休業等を生かして、家庭でも学習したことを続けて実践させるようにする。 ○個々の技能に合わせた作品作りのゴールを設定する。 ○作業工程に合わせた見本や写真を提示し、理解を促す。 ○感染症対策を考慮しつつ、グループで技術を教え合う活動を取り入れる。 ○個別指導の時間を取り、進度に差が出ないようにする。

--	--

--

- 試食はしないが、手洗いを徹底して調理実習を実施する。(持ち帰りもなし)
- 土日を活用して家庭学習を課す。

(9) 体育科

<p>体育科の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達段階に応じた指導を行い、主体的・対話的に運動に取り組めるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年…基本的な動きを身に付け、だれとでも仲よく、協力して取り組もうとする力。 ・中学年…運動を楽しくできるようにすることともに、きまいを守ってお互いに協力し合って運動に取り組もうとする力。 健康な生活と体の発達について理解する力。 ・高学年…自分の課題を認識し、解決の方法を考え、運動の仕方を工夫し、協力・公正の態度を身に付け、運動に取り組もうとする力。 心や体の健康について理解する力。 ○運動時間の確保。児童の活動時間が十分に確保できる授業展開。 ○フライングフットボールやティーボール、短縄の取り組みなどを通して、生活の中において運動がより身近なものとなるよう働きかけていく。
--

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○運動への興味が強く、積極的に取り組んでいる児童が多い。 ○個々の運動量、運動技能の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一トートが継続して意欲的に取り組むことのできる学びの工夫。 ○運動量の十分な確保。 ○一トートの力に合った場の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ○遊びを通し、自然に多様な動きをつくる運動となる場の設定をする。 ○短縄など年間を通して継続的に行い、体力を付けさせる。 ○一トートの力に合った「めあて」をもたせ、自分なりの達成感を味わわせる。 ○ルールを工夫することで、全ての児童が活躍できる学習活動を行う。
	<ul style="list-style-type: none"> ○個々に体を動かして運動を楽しむことはできる。 ○小グループでルールを守ったり協力したいする活動になると、取り組み方がわからなくなる児童がいる。 ○個々の運動技能の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と協力しながら運動する時間の確保。 ○運動量の十分な確保。 ○様々な体の使い方を習得できる授業の工夫。 ○一トートが意欲的に取り組むことのできる学びの工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○できるようになった実感をもたせるために、スモールステップのゴールを設定したい、誰でも達成感をもてるルールを考え、取り組ませる工夫をする。 ○集団で運動することの楽しさを感じることで、意欲的に取り組めるようにする。 ○工夫が見られたい、良い体の動きを動画で全体で振り返り、新たな体の使い方を習得しやすくする。 ○身近な物を使った簡単な運動を取り入れるなど、運動に親しみやすい環境を整える。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ○運動への興味が高い児童が多く積極的に取り組んでいる。 ○運動技能の差が大きく、運動量に違いがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能を高めるポイントの明確化。 ○運動量を確保し、技能を高めるための場の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入に学級全体で体を動かす準備運動を取り入れ、運動に親しむきっかけをもたせる。 ○友達の動きを参考にしたい、教師の支援と共に児童相互の助言を生かしたいして、楽しみながら技能の向上を図る。 ○授業の中でいろいろな運動を経験する場を設定する。 ○段階を踏み、少しずつ技能の向上を図ることで、達成感をもたせ、日頃の運動への意欲につなげる。

4年	<ul style="list-style-type: none"> ○体を動かすことが好きな児童と苦手意識の強い児童との差が大きく、技能にも差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○技能を高めるポイントの明確化。 ○幅広い運動能力をもった児童全員が満足する授業展開の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポイントを提示し、少しずつ技能の向上を図ることで、達成感をもたせ、日頃の運動への意欲につなげる。 ○児童が意欲的に取り組むことができるルールを児童自らが工夫し、すすんで運動をしようとする態度を育む。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題やその解決の方法を適切に選ぶことが難しい児童が多い。 ○運動の仕方や技能のポイントを理解していない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題の発見や解決に適した場を設定。 ○技能のポイントを明確に理解できる授業展開の工夫。 ○運動に親しむ態度の涵養。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題と練習の場を結び付けて考えられる教材・教具の準備をする。 ○課題の解決に向けた練習の場の確保。 ○お互い見合う中で、ポイントや視点を伝え、意識させるようにする。 ○運動への多面的な関わり方を知る機会をもち、運動に親しませるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○自己の課題やその解決の方法を見い出すことが難しい児童が多い。 ○運動の仕方や技能のポイントを理解していない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○解決に向けた適切な場を設定。 ○対話的な学習活動の設定。 ○運動に親しむ態度の涵養。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題と練習の場を結び付けて考えられる教材・教具の準備をする。 ○お互い見合う中で、ポイントや視点を伝え、意識させるようにする。 ○オリパラノートなどの教材を活用することで、体育の多面的な見方・考え方を働かせる機会をもち、運動に親しませるようにする。

(10)外国語活動・外国語科

外国語活動・外国語科の重点

- 小学校外国語科の目標に示されている「五つの領域」のうち、特に「聞くこと」に重点を置く。高学年は「読むこと」「書くこと」の学習時間を毎時間確保する。
- 聞く力を高めるために、中学年は日常生活に関する身近で簡単な事柄について、音声(ALTの発音、担任の発音、IT教具・教材の音声)を繰り返し聞き、英語の音声に慣れる。
高学年は、音声で充分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。
- 第6学年は中学校の学習へスムーズに移行できるように、毎時間書き取り(視写)の活動を行う。

【小学校】

現状分析(成果と課題)		授業改善プラン	
分析内容		指導上の課題	改善案
3年	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語と外国語の音声の違いに気付いているものの、明確な内容や意味を聞き取るのは難しい。 ○外来語と英語の区別が曖昧な児童が多い。 ○日常生活に関する表現を自ら考えて発することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リスニングの時間を単独で取り、ALTの生の発音を聞く量を増やすための工夫。 ○身の回りにあるものの英語での言い方に触れる機会を増やすための工夫。 ○全体での会話練習と並行し、一人一人が自信をもって発話するための工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌や絵本の読み聞かせなどからも、外国語の音声や独特の表現に慣れ親しませるようにする。 ○日常にあみられている外来語を用いて、英語の言い方と比較しながら発話する習慣を付けさせるとともに、フォニックスに取り組む。 ○感染対策を考慮しつつ、ペア学習に取り組む間に、ALTと担任が、机間指導をする。自分の気持ちを自然に表現できるように、基本の表現を繰り返し練習する時間をつくる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆっくりと繰り返し話されれば、話の内容を理解できる児童もいる。 ○ローマ字読みとフォニックスの違いに気付いている児童もいる。 ○あいさつや「What」で始まる質問に親しんでおり、簡単な単語で答えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○分かる児童だけでなくすべての児童も何となく意味を捉えることができるようにするための工夫。 ○英単語の読み方を定着させるための工夫。 ○質問に自分の考えで答えさせるための工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○聞こえてきたまま発音することで、自然な英語を身に付けさせる。 ○フォニックスの指導を取り入れて、ローマ字と英単語の読み方の違いや、日本語とのつづり方の違いに気付かせるようにする。 ○会話のテンプレートを用意し、自ら考えたことを当てはめて言えるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○今までに聞いた経験を頼りに、意味を把握することができるものもあるが、似ている単語や表現の判別を苦手としている児童がいる。 ○すんなりと読めるものと、読めないものの差が大きく、読めないものに関して、正確に読む手立てをもてない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紛らわしい発音を、混同させないための工夫。 ○文字と発音の規則性や特徴を捉えさせる機会を増やすための工夫。 ○表現のバリエーションを増やし、自分の気持ちに近い言葉を的確に選んで発言するための工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音や音声を繰り返し真似て発音し、自分の発音に自信をもたせるようにする。きちんと伝わったかどうかフィードバックする。 ○読むことと書くことをセットにして、単語やチャンク(意味のかたまり)を覚えられるようにする。 ○日本語で気持ちや状況を表すことを基に、自分の考えを伝えることを目的とした返答の仕方を指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆっくりと繰り返し話されたことに関しては、概要を理解することができるが、話全体の流れを推測することができない児童がいる。 ○音声で慣れ親しんでいても、文字にすると、結びついていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前述の文の意味から、次の文の意味を予測し、違和感のない話として全体を捉えるための工夫。 ○聞こえた音をそのまま文字にしないように意識させるための工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ティーチャーストークやスキットなどを、毎時間聞かせたり見せたりすることで、聞き慣れた単語や表現を基に全体の流れを捉える習慣を付ける。 ○音声と文字の違いを識別し、その読み方を発音できるように繰り返し練習する時間を確保する。

○定型文の模倣だけで、内容を理解せずに書いている。

○定型文でのやりとり(ペア学習)ではなく、自分の考えや気持ちを表現するための工夫。

○言いたいことを表現するために、適切な言葉を辞書で調べたい、言い方を教師に聞きたいする時間を十分に設ける。

ALTの活用の工夫

- 児童が日本語との言葉の違いや文化の違いに気付くように、ALTの英語の音声や英語を話す際のジェスチャーなどを何度も児童に聞かせたい見せたいして、模倣させる。
- 完璧な文の会話ではなくても、他言語の人とコミュニケーションを取ろうとする態度を養うため、また、自分の考えや気持ちが伝わったときの喜びを味わわせるために、ALTとの会話やALTに向けたプレゼンテーションの機会をたくさん設ける。